

2021年1月果実概況

全国の気温は上旬低く、下旬高め。東日本日本海側は記録的大雪、西日本日本海側は多照。

1月の気温は上旬に平均気温を下回る寒い日が続き、太平洋側は干ばつ傾向だったが、下旬になると気温は3月並まで上昇する日があり、待望の雨が降った。

果実全体の入荷量は前年比107%、価格448円(前年比98%)。みかん類・りんご類・いちご類は不作だった前年を上回る量から販売苦戦。新型コロナウイルス感染拡大により1月7日より再度緊急事態宣言が発令され業務需要は低迷が続く。

みかん類は入荷104%、価格252円(91%)。主力静岡産「青島温州」は雹害を受けた前年に比べ4割増、熊本産は3倍近く増えた。「早生みかん」は和歌山・香川・熊本・長崎産などが年明けまで在庫残り、大幅増。「袋掛けみかん」の販売はは平年並みが入荷量は前年を下回る。みかん全体では平年並みも、荷動きは鈍く価格は前年比1割安。

かんきつ類は入荷99%、価格353円(104%)。「いよかん」「ぽんかん」「不知火」中心。各地前年並みの出回りで大玉傾向。みかん類の入荷多く、また晩柑類全体に高単価品が多いことから販売振るわず、入荷・価格ともにほぼ前年並み。

りんご類は入荷125%、価格302円(88%)。青森産貯蔵品が販売の中心となるが、「ふじ」「ジョナゴールド」は貯蔵量少なかった前年に比べ3割増。中国の旧正月で蜜入り・高糖度かつ大玉の需要が高く、下等級中心の販売だったが、量販店の動きは良好。価格は前年比安もほぼ平年並み。

いちご類は入荷146%、価格1,474円(82%)。天候不順で遅れていた前年に比べ栃木産「とちおとめ」は5割、福岡産「あまおう」、静岡産「紅ほっぺ」は2割増と大きく上回る。低温と曇天から肥大は緩やかに進み、各種2番果は大玉傾向で平パックの比率は高め。コロナ禍で量販店でも販売苦戦となり、価格は初売りから前年割れで推移した。

メロン類は入荷107%、価格790円(64%)。静岡産「アールスメロン」は低温により小玉傾向、熊本産は遅れが目立った前年より多く、メロン総体では前年比若干増。年内からコロナ禍で納め需要は少なく、価格安の流れは変わらなかった。

キウイは入荷74%、価格530円(106%)。ニュージーランド産は6割増も、国産は春先からの天候不順を受けて生育不良のため福岡・和歌山産は小玉傾向。1月は国産入荷比率が高く、箱数が伸び悩み入荷減、不作だった前年並みの価格で推移した。

干し柿は入荷85%、価格1,739円(99%)。福島産「あんぽ柿」は原料も潤沢にあり、乾燥作業も進んだことから前年比若干増。長野産は原料が少なく前年の6割の入荷。また、原料減のため年内販売にシフトする産地が多く、干し柿総体の入荷は減少。価格は前年並みも平年より高かった。